日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

# 裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２３期・７巻　２０１７年１０月号　ＮＯ．１９８

仲間と仲間を結ぶ機関誌

# れいほう

Susono Reihou Alpine Club

「霧氷・紅葉・緑の三段染め」

山行ＮＯ．１７５７
１０月０５日（木）
谷川岳馬蹄形縦走・朝日岳に向かう

「山々のブログ」　Ｎｏ．１６９

後藤隆徳

# これでいいのか大峯山

先日、女子４名、男子１名（私）で、熊野奥駆道・山上ヶ岳（大峯山）に佐和又山から上った。
大普賢岳を越えて、阿弥陀ヶ森分岐に関所を彷彿とさせる黒い大きな「女人結界門」があった。
傍らに「登山者へお願い」のやはり大きな立看板があった。ここは女人禁制の山だった。
看板は「女人禁制」の趣旨が書いてあった。
看板の内容は、伝統・伝承・慣習・因習・宗教文化で「女人結界」の維持に協力を賜りたいと結んであった。
しかし、女性が禁制を十分納得できる説明は、そこから読み取れなかった。

今回の登山はある意味、実際はどうなのかの検証登山でもあった。結果、頂上下で寺関係者に女性軍が捕まり、罵詈雑言の雨嵐だった。曰く、「祟りがあるぞ・罰が当たるぞ・リーダーの男（私）は、それでも日本男子か」等々・・・。
這う這うの体で下山した。洞川（どろがわ）方面から多くの修験者が上って来る。何も言わない者もいるが、ネチネチ問いただす輩もいた。ようやく、西の結界、五番関外に出た。
そこで見たものは、結界門の「女」が剥がされ、立看板の「女性」、英文の「ＷＯ」（ウーマン）が削られていた。これには、関係者の大いなる「怒り」と感じた。

かつて日本の数多くの場所で女人禁制があった。しかし、高野山さえ１９０６年、明治３９年、女人禁制は撤廃された。
インターナショナルな世界遺産でもある大峯山が未だ全面女人禁制とは理解・信じ難い。
かつて女性の反対運動もあった。確かに、女人禁制は様々な理由に起因している。
だが、何故それほどこの現代、女性を忌み嫌うのか全く理解出来ない。
今後は全面禁制でなく、年に何回か女性が登山出来るなどの現実的な措置が欲しい。
要は、全国の心ある女性が、めげずにガンガン訪れればイイだけの話である。

五番関結界門（女が削られている）

**イ、１０月度・例会報告**　　**１０月８日（日）　生協会議室　１５：３０～**

１．１０月２日（月）　東部ブロック会議

**ロ、山行報告**

| | | | |
|---|---|---|---|
| NO.１７５２ | ０９月０２日（土） | パノラマ台（雨中止） | |
| NO.１７５２ | ０９月０５日（火） | 金時山＝２回周遊 | Ｇ、Ｋ、Ｈ |
| NO.１７５３ | ０９月０９ | パノラマ台 | Ｇ、Ｋ、Ｈ、Ｍ、Ｉ |
| ＮＯ．１７５４ | ０９月１６日（土） | 富士山＝きのこハイキング（台風中止） | |
| ＮＯ．１７５５ | ０９月１９日（火）～２１日（木） | | |
| | 熊野奥駆道＝和佐又ヒュッテ～山上ヶ岳～青根ヶ峰 | | Ｇ，Ｋ、Ｈ，Ｍ，ほか1 |
| ＮＯ．１７５６ | ０９月３０日（土） | 乾徳山 | Ｇ，Ｋ，Ｈ，Ｍ，Ｉ |
| ＮＯ．１７５７ | １０月０４日（水）～０６日（金） | | |
| | 秋山合宿・１＝戸神山、谷川岳馬蹄形縦走 | | Ｇ，Ｋ、Ｈ、Ｍ、ＧＹ |

**ハ・今後予定**

１０月１４日（土）～１５日（日）　秋山合宿
１４日＝小川山登山（民宿泊）　１５日＝甲武信岳登山
１０月２８日（土）　ハイクの日
１０月２９日（日）　県連＝安全登山講習会
車１台＝５名予定（車代は会負担）**参加＝室伏・峰田・伊藤・合谷**
「山の天気の基本と気象遭難を防ぐ天気図見方」ヤマテン・河野卓朗氏
清水区役所「ふれあいホール」１３：１０～
１０月３０日（月）～１１月２日（木）個人行事＝熊野古道・中辺路

１１月０４日（土）　個人山行
１１月１１日（土）　定例ハイク
１１月１２日（日）　東部ブロック交流ハイク＝甲斐・日向山
**参加＝後藤、峰田、合谷**
１１月２５日（土）　個人山行

１２月０２日（土）　定例ハイク
１２月０２日（土）～０３日（日）　女性と全国登山集会＝国立女性教育会館
１２月０９日（土）
１２月１６日（土）　忘年山行＝**宴会は下土狩「喜作寿司」・・・山域未定**
１２月２３日（土）
１２月２８日（木）～３０日（土）　仙丈ヶ岳・小仙丈尾根（リベンジ山行）

**二・日向山交流ハイク計画**

第１回　東ブロ会議
2017 年 10 月 3 日（火）14:30～場所「ちょっ蔵」

出席者
伊豆ＨＣ：鍋島（○）三島労山：山口（○）裾野ﾚｲﾎｰ：後藤（○）　山楽歩：加藤（欠）
沼津労山：植松（○）駿東山の会：近森（○）あさぎり山の会：福原（○）
県連理事長：斎藤（○）　　その他

議　題
東部ブロック交流ハイク　　11 月 12 日（日）　山梨・日向山
1. ハイキング講座の実施
日　時　　10 月 26 日　19：00～20:30
場　所　　三島市生涯学習センター
参加者募集　一般に呼びかける　後藤・他が手配する、
内　容　　装備・ハイキングで注意する事・・植松（資料・報告）
　　コース説明・・後藤
　　開会あいさつ・ブロック長・・鍋島　　閉会・理事長・・斎藤
　　※役員は 18:30 集合
　　一般参加が多い場合は、横断幕を作る・・・後藤

2. ハイキング
日　時　　11 月 12 日
場　所　　日向山
　バス時間　函南６：００　三島駅北口 6.:15　下土狩駅 6:20　⇒裾野市役所 6:30
　　⇒沼津 IC　⇒富士 IC7:10　　⇒富士宮 7:30
　　⇒朝霧道の駅⇒甲府南 IC⇒韮崎 IC⇒9:30 竹宇駒ケ岳神社
　ハイキング　駒ケ岳神社 9:30⇒矢立石 10:30⇒12.:00 日向山
　　提案・・・頂上で何か作りましょう！！！

日向山 13:00⇒矢立石 14:30⇒15:00 駒ケ岳神社
　帰り　　駒ケ岳神社 15:30　⇒　⇒　⇒18:30 三島駅→→→函南
　　バス手配　鍋島
**参加費**　　**3,000 円**（バス予算　１５０、０００－くらい？？）

参加割り当て　伊豆 10 名、三島 5 名、駿東 5 名、沼津 4 名、富士、5 名
　　朝霧 15 名
第１回参加者集約　10 月 11 日　鍋島メールで参加者を報告⇒各会に報告

※ 11 月 11 日お昼の天気予報で中止は判断、各会に連絡
※ 参加名簿は鍋島が作成

＊バス司会　　鍋島
＊バスで山の歌を唄う・・・担当　植松

**ホ・山行報告**

裾野麗峰山の会山行報告書　　文・写真　ＧＴ

山行番　　ＮＯ．１７５６
日　時　　２０１７．７．２９（土）高曇り
山　域　　乾徳山（２０３１ｍ）
コース　　長泉６：００－徳和発８：３１－錦昌水１０：０６—月見岩１０：５０—最初の岩場１１：２１—頂上岩壁１１：５１—乾徳山１１：５９－岩壁下（昼食）－月見岩１３：３０－大平牧場１４：４８
標高差　　上り　徳和約８８０ｍ～乾徳山２０３１ｍ＝約１１５１ｍ
　　下り　乾徳山２０３１ｍ～大平高原約１３００ｍ＝約７３１ｍ
参加者　　徳和＝ＧＴ，ＭＭ，ＩＴ　　大平＝ＫＨ，ＨＡ＝５名

コースは、Ａ班・３名＝徳和～国師ヶ原～扇平～山頂～大平、Ｂ班・２名＝大平から往復。
長泉出発時、山域は、富士山・丹沢・山梨方面だった。体調不良の方がいて思案。結局、２名が上っていない、乾徳山に決定。
丹波栗がたわわに実る徳和で３名下車。２名は大平高原に向かった。女性軍は、
栗拾いに精を出した。養鱒所脇から歩きだす。途中、林道が崖崩れだった。
前日、雨だったらしく、やや滑る登山道を行く。寒いと思ったが暑くて大汗を掻く。
ただ、登山道は上り易く快適。錦晶水で休憩。
国師ヶ原は、まだ紅葉は早かった。５０年前、初めて訪れたが、当時は牛乳が売っていた。
扇平から雲海上の富士山山頂部が少し見えた。ここから、Ｆ市の方が同行。
岩場に掛かる。岩は乾いて快適。初めての皆さんも、それなりに楽しんで上っている。

山頂下で大平班と合流後、頂上岩壁を上る。気持ち良かった。大げさに言えば久しぶりの岩だった。
途中、クラックに靴が挟まってしまった。頂上は混んでいたので、記念写真を撮って下山。
岩壁下で皆と昼食。このところ玉子焼きを研究？？しているが、今回も美味しかった。

Ｆ市の方は、水のタルから下るので先に出発した。午後は、大平高原に下山。
扇平に千振が沢山咲いていた。ジゴボウ（鼻猪口）を探したがなかった。下山後、
メルシャンワインに寄って試飲。乾徳山は、まあまあ標高差も あり、森・高原・岩場と三点セットの好きな山。

帰路、御坂のキノコ屋に寄った。店には年配のジジ・ババさま二人。応対はババさま。ジジさまは、奥でジッと椅子に座って動かなかった。キノコは１０種類ほどあった。ハナイグチ以外知らなかった。
特徴的なキノコの名称を聞いたら、ババさまが「ヤナギ」と教えてくれた。
店には２０分ほどいた。他に店もあり、全体的にやや古かったので、購入しないで辞した。

そうしたら、ババさまが突然「授業料を払え」と叫んだ。「エエエ～、冷やかしはご法度か？？！！」
兎に角、車に乗った。そうしたら今度は、今まで微動だにしなかった、ジジさまが、やおら立ち上がり
猛然と車に近づき、ワーワーと何か喚いていた。今にも車を蹴っ飛ばさんばかりの勢いだった。
ジジさまにドシャを掛けられた。甲州人はジジさまも怖えな～！！

相当、虫の居所が悪かったか、その日、お客が少なかったか。立ち去るとき外車が１台来たが、
果たして、その方はどうなったか？？

錦昌水手前

Mさん

頂上岩場

富士山

扇平

千振

ヤナギと呼ばれる、食用キノコ

裾野麗峰山の会山行報告書

文・写真　ＧＴ

山行番　　ＮＯ．１７７５
日　時　　２０１７．０９．１９（火）～２１日（木）
山　域　　熊野奥駆道・和佐又ヒュッテ～大普賢岳～山上ヶ岳～青根ヶ峰～大滝
コース　　１９日＝下土狩６：００－東名―伊勢湾岸道―刈谷―四日市―亀山―伊賀―大滝１２：２２－タクシー－和佐又山ヒュッテ１３：０９（泊）
　　２０日＝起床４：００－出発５：０３－笙ノ窟（しょうのいわや）－大普賢岳７：１８－女人結界８：２６－山上ヶ岳１０：０１－五番関・結界１２：１０－大天井ヶ岳１３：１２－ニ蔵宿小屋１４：０９（泊）
　　２１日＝起床５：０５－出発６：１３－四寸岩山７：１３－青根ヶ峰下８：１８－大滝林道終点９：１３－刈谷ＳＡ（入浴・食事）－下土狩１７：００
標高差　　上り＝和佐又ヒュッテ約１１５０ｍ～大普賢岳１７８０ｍ＝約６３０ｍ
　　小笹の宿約１６１６ｍ～山上ヶ岳１７１９ｍ＝約１０３ｍ
　　五番関約１２１１ｍ～大天井ヶ岳１４３９ｍ＝約２２８ｍ
　　百丁茶屋約１０５０ｍ～四寸岩山１２３６ｍ＝約１８６ｍ
参加者　　ＧＴ、ＫＨ、ＳＩ、ＭＭ，ＨＹ＝５名
荷 物　　Ｋ＝１５ｋｇ位、Ｇ＝１２ｋｇ位、ほか１０ｋｇ位

# 信仰の山とブナの森

１９日（晴）　Ｈの車で富士ＩＣに向かい、Ｋと合流し、Ｋの車で第二東名に乗った。天気はイイ。大きな渋滞はなく予定より早く大滝着。ここからタクシーで和佐又山ヒュッテに行く。タクシーのドライバーは、川上運輸の松本健次さん。いろいろガイドしてくれた。３０分程でヒュッテ着。料金は、１０３５０－だった。
ヒュッテは古い建物で、綺麗でなかった。様々なモノが雑然と置かれていた。明日の登山口を確認した。若いグループのキャンパーがいた。他、バンガローに泊まる、大台ケ原から来た、バイカー

和佐又ヒュッテ

ヒュッテ内

もいた。時間は十分あったのでイッパイやった。「リサ」という犬が、人懐っこかった。１６時、風呂を沸かしてくれたので入った。大きな木製の浴槽で、なかなか良かった。
夕食はインスタント物が多かったが、まあまあ良かった。ご飯が美味しく、腹イッパイだった。明日は早いので、すぐ休んだ。寝床は三段式ベットだった。宿料金は７５６０ー。

２０日（曇時々小雨）　４時起床。朝食は作って置いてあった。シャケ・納豆もあり、食べきれないくらいだった。ヘッデンで出発。朝やって来たオジサンもいた。オジサンは、この辺りは何回も上っていると言った。途中でオジサンが先行。
涼しい風の中進む。次第に岩っぽくなる。大普賢岳のトラバース道になると、朝日窟・笙ノ窟とか岩壁の岩屋が数ヶ所見られた。鉄梯子・鎖場をこなす。さながらミニ黒戸尾根で飽きなかった。天気は高曇りで、涼しい風がゴーゴーと吹いていた。今日は日本海側で悪天候予想だった。
急登をこなして、大普賢岳着。風が冷たかった。小休止し再び出発。辺りはシャクナゲの山だった。皆さんの意見では、葉がやや小さいとのこと。盛期は凄いだろうと思った。明王ヶ岳を過ぎて、阿

笙ノ窟

女人結界門と看板

弥陀ヶ森分岐。ここに例の厄介なモノ＝結界門があった。門の脇には、「登山者にお願い」と結界の趣旨が書いてあった。結界については、諸説がある。要するに女性蔑視・女性を不浄なモノと位置つけた考え。しかし、あの高野山でさえ、１９０６年、明治３９年、女人禁制は撤廃された。それが、ここは未だに続けられている。一番、不可解なのは「世界遺産」でありながら、それが認められたこと。インターナショナルな現在、それが通用するとは・・・。
今回は通行に確信はなかった。ある意味、確信犯だった。そんな奴がいてもイイだろう。結果は、案の定、最悪だった。最初、宿坊とおぼしき所の若い輩に捕まった。そうこうしているうちに、年配のオヤジが出てきて罵詈雑言の嵐。「死ね馬鹿やろ～」「日本男子が何を考えてる」「罰が当たるぞ」「祟りが掛かるぞ」等々。結局、押し問答だった。埒が明かないので、強行突破だった。ワン・ツー・スリーでダッシュした。彼らにもイイ刺激であったと思う。今後は、せめ年何回か、女性登山を認めるとかの措置が欲しいものだ。
しかし、何故それほど女性を忌み嫌うのか理解できない。自身の出生は、正に女性からだ。それを
否定するのは、自己否定ではないだろうか。

女人禁制に関する詳しい記事
http://www.jinken.ne.jp/gender/oomine/oomine4.html

http://www.jinken.ne.jp/

山上ヶ岳

光明

文殊
創造
だらにすけ者
丸夏新平堂

兎に角、小天井ヶ岳の結界まで急いだ。気分は最悪だったからだ。洞川（どろかわ）方面から多くの修験者が上って来る。何も言わない輩もいるが、ネチネチ問いただす輩もいた。聞くのは不快だから一人先を急いだ。
洞沢分岐を過ぎると、登山者は全く来なかった。やがて五番関・結界門着。結界門の「女」の彫刻が削られ、看板の漢字の「女性」と英文の「ＷＯ」がギザギザになっていた。やっぱり、反発は相当なものと感じた。ここでユックリ大休止。話題は「そのことばかり」だった。宿坊のオヤジの罵詈雑言がいつまでも、耳に残った・・・。

「女」が剥がされている

ここまで来れば、今日の宿、二蔵宿小屋は近かった。小屋はキレイな感じだった。ただ、先日の台風の雨が吹っ掛け、床に溜まっていた。女子が雑巾で拭いてくれた。以前、泊まったＫの話では、囲炉裏に薪を燃やせたと言うが、囲炉裏にはストーブが置かれていた。広い庭には、不動明王が祭ってあった。ここは水がないので今回、各自２リッター背負って来た。お蔭で、夕餉は美味しく

「女性」と「ＷＯ」が削られている

頂けた。私はＫが上げてくれたビア２本を飲み、自身が上げた熱燗を飲んだ。しかし、今日の行程９時間の体には、霧散してしまった。暗くなれば寝るだけ。昔話に花が咲き、いつしか夢の中。ただ、知らなかったが夜半、小さなネズミがガサゴソで女性軍はワーワーキャーキャーだった。

二蔵宿小屋

不動明王

２１日（快晴）　夜半は暑く、朝方ようやく冷えて眠れた。５時５分起床。東の空は真っ赤だった。小屋は天窓なので、明るくてよろしい。今朝も美味しい朝食を頂いた。Ｈが上げたバナナがデザートだった。小屋は最後、Ｓが丁寧に掃除をしてくれた。
出発前、庭の不動明王前で、朝のお勤めを行った。色々あったが、まずは感謝の心だ。荷物は大分軽くなった。四寸岩山を上れば、あとは下りのみ。モノレールに沿って下り切ると、林道に出る。林道を歩けば青根ヶ峰下に着く。下山はここから大滝に向かう。
静岡に帰ってから、このまま吉野に下れば良かったと、反省しきり。大滝に向かう、音無川は見事な清流だった。下り切れば、一昨日置いた車が待っていた。帰りは、刈谷ＳＡで入浴し、昼食を済ませ、ビア・熱燗をいただいて幸せだった。往復８００ｋｍ、Ｋの運転。お疲れ様、ご苦労様でした。

（了）

大普賢岳

小笹宿

小笹宿

二蔵宿小屋

「れいほう」　１０月号　おわり